

事業所における自己評価結果

討議年月日:令和 6 年 3 月 6 日

公表:令和 6 年 3 月 11 日

事業所名 kids space リフライズ府中本町

チェック項目		はい	どちらともいえない	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標
環境・体制整備	1 利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切である	100%			・個室などを設けて個人の活動に合った環境を作っている ・死角も多いため、支援の目が切れないようスタッフの配置を工夫している	・利用定員の増加により狭さを感じることもある。利用人数を踏まえた活動(外出など)を引き続き計画しながらより円滑な支援を行う。
	2 職員の配置数は適切である	100%			・基準は満たしているが、送迎の時間帯は職員が少なくなる場面もあるため、職員間で連携を図り、子どもたちが安心安全に過ごせるよう職員配置を工夫している。	
	3 事業所の設備等について、バリアフリー化の配慮が適切になされている	85%		15%		・出口から歩道に面しているが、視界が遮られ自転車の通行が見えず危険を感じるため、ミラーの設置なども検討していきたい。
業務改善	4 業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画している	100%			・ミーティング時にはなるべく全てのスタッフが発言できるように、管理者がファシリテーターを担っている	・非常勤職員との連携が不十分となることもあるため、日頃のコミュニケーションはもちろんLINEworksなどのツールをしっかりと活用し、情報共有の漏れがないように心がけている。
	5 保護者等向け評価表を活用する等によりアンケート調査を実施して保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげている	100%			・支援前と支援終了後には職員間で情報共有や振り返りを行っている。	
	6 この自己評価の結果を、事業所の会報やホームページ等で公開している	100%			年度末にアンケート調査を実施し、来年度の業務改善に活かしている。	
	7 第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげている			100%		・第三者により評価は現在実施していない。
	8 職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保している	100%			・定期的に研修の機会が設けられており、各自意欲的に参加している。	・研修を受けていない職員にも実践で活かせる内容があれば、学んだことを積極的に共有していく。
適切な支援の提供	9 アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成している	100%			・新人職員には各事業所1週間程度の研修期間を設けている。	
	10 子どもの適応行動の状況を把握するために、標準化されたアセスメントツールを使用している	57%		43%	・いちスタッフの意見のみが反映されるのではなく多角的な視点で捉えながら、スタッフ全体の考えや、関係機関の意見が盛り込まれるよう工夫している	
	11 活動プログラムの立案をチームで行っている	100%				・施設内でツールを用いたアセスメントを行うことはないが、関係機関におけるアセスメント結果をもとに個別支援計画書を立案している。
	12 活動プログラムが固定化しないよう工夫している	100%			・子どもたちが新たな楽しみを見つけたり、興味関心の幅が広がるように、活動内容がマンネリ化しないよう、スタッフで定期的に話し合いを行なっている	
	13 平日、休日、長期休暇に応じて、課題をきめ細やかに設定して支援している	71%		29%	・子どもたちが新たな楽しみを見つけたり、興味関心の幅が広がるように、活動内容がマンネリ化しないよう、スタッフで定期的に話し合いを行なっている。	・個別支援計画をスタッフ間でしっかりと把握し、その子との活動や関わりの中で意識的に取り入れていく。
	14 子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ放課後等デイサービス計画を作成している	100%			・基本的には子ども達自身の取り組みたい活動を尊重し、その中で身体を動かす活動や指先を使う制作活動など幅広く提案し、支援を行っている。	
	15 支援開始前には職員間で必ず打合せをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認している	100%			・午前中の時間帯や午後の支援が始まるまでの間で、話し合いの時間を設けている。	
	16 支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有している	100%			・退勤時間までに、その日の支援内容についての気付きや反省点などをそれぞれで出し合い、口頭での意見交換や情報共有を行っている。	
	17 日々の支援に関して正しく記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげている	85%		15%	・非常勤スタッフに日報内容や連絡ノートの内容を確認していただき、LINEworksでの共有や個別での伝達を行っている。	
	18 定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断している	100%				・支援後の時間でその日の振り返りを行っているが、全スタッフ間での共有が充分とはいえないため、今後は意識して全スタッフ間で認識に齟齬がないように配慮していきたい。
19 ガイドラインの総則の基本活動を複数組み合わせ支援を行っている	100%			・モニタリング時期が近い利用者については、スタッフ全体で課題や目標の達成状況について話し合い、見直しの必要性について協議を行っている。		
20 障害児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画している	100%			・児発管や管理者が参画している。		
21 学校生活に関する相談が増え、教育相談や参観日への同席を行う等、連携を図り情報共有を行っている	100%			・学校生活に関する相談が増え、教育相談や参観日への同席を行う等、連携を図り情報共有を行っている。		
22 医療的ケアが必要な子どもを受け入れる場合は、子どもの主治医等と連絡体制を整えている	85%		15%		・現在医療的ケアが必要な利用者はいないが、かかりつけ医についての情報は保護者から得ている。	

関係機関や保護者との連携	23	就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めている	85%		15%	・必要に応じて適宜行っている。	・同施設の児童発達支援事業所との連携は行っている。保護者の希望があれば、関係機関との連携も積極的に進んでいきたい。
	24	学校を卒業し、放課後等デイサービス事業所から障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等している	85%		15%	・現時点では対象児童なし	・これまでにそのような事例がない。
	25	児童発達支援センターや発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けている	71%		29%	・保護者を介して各センターの助言を聞くことはある。その際にはその意見も踏まえて支援計画を立案している。	・保護者の希望があれば、各センターとの連携も考えていきたい。
	26	放課後児童クラブや児童館との交流や、障がいのない子どもと活動する機会がある	43%		57%	・公園遊びなどで関わりを持つことはある	・今年度より地域の児童センターに足を運ぶようになり、定期的に障害のない子どもと同じ空間で遊ぶ機会を設けている。引き続きそういった機会を持てるように活動内容を考えて行く。
	27	(地域自立支援)協議会等へ積極的に参加している	100%			・事業所として管理者等が府中町の自立支援協議会に出席している。	
	28	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っている	100%			・連絡ノートや送迎時に対面で話をしている際など、日頃から些細な気づきについて共有し、共通理解が持てるよう心がけている。	
	29	保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対してペアレント・トレーニング等の支援を行っている	43%		57%	・研修機会があれば参加しており、家庭や学校生活での困り事に関しては、随時相談に乗り、必要時社会資源等の情報提供を行っている。	・モニタリング面談のみならず相談があればその都度保護者に助言をしているため、継続して取り組んでいく。
保護者への説明責任等	30	運営規程、支援の内容、利用者負担等について丁寧な説明を行っている	100%			・契約時に説明を行い、利用するなかで疑問点や不明点などがあれば、その都度対応している。	
	31	保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っている	100%			・保護者からのアクションを待つだけでなく、気になる様子があれば、こちらから話を持ちかけ相談・助言対応を行なっている	
	32	父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援している	85%		15%		・昨年度から年に1回程度保護者を交えたイベントを計画している。保護者からも要望があるため、今後も継続して開催したい。
	33	子どもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応している	100%			・苦情を受けた際は迅速に対応し、スタッフ間での報告、情報共有を徹底している。	
	34	定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信している	100%			・HUGでイベントの告知を行ったり、リタリコのプログやインスタグラムで日々の活動内容を投稿している。	
	35	個人情報に十分注意している	100%			・個人情報の流出がないよう、写真の使用については十分に配慮している。	
	36	障がいのある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしている	100%			・個々の特性に合わせた意思疎通や情報伝達ができるように、コミュニケーション面では細やかな配慮を心がけている。	
37	事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っている			100%		・現在実施していない。	
非常時等の対応	38	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアルを策定し、職員や保護者に周知している	100%			・各マニュアルを策定し、契約時に説明を行っている。事業所でも保管し、職員が確認できるようにしている。	
	39	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っている	100%			・年に最低2回は職員・児童を対象とした避難訓練を実施。	
	40	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしている	100%			・虐待防止研修を全職員受講。	
	41	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載している	85%		15%	・契約時に直接話し、重要事項説明書にも記載されている。	・事業所での対応方法について協議をしていく。
	42	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされている	100%			・契約時のアセスメントで確認を行い、クッキングや食事をとする外出イベントの際には、十分に留意して対応している。	
	43	ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有している	100%			・ヒヤリハット事例は記録に残し、職員間で共有、保管している。	